

# 平成27年度事業報告

(平成27年4月1日から平成28年3月31日)

公益社団法人府中町シルバー人材センター

地方は人口減少社会の中にあって、時代の変化と共に地方分権改革を推進し、国と一体となって地域活性化のため、魅力あるまちづくりに積極的に取り組んでいます。

府中町はこのたび、好循環による新たなまちづくりのエネルギーを生み出す視点として、「愛着」「誇り」「魅力」をキーワードに誰もが「住んでよかった、またこのまちに住んでみたい」と思われるまちづくりを目指すとし、府中町第4次総合計画を平成27年度末に策定し、この計画の実現にあたっては、行政だけではなく、住民、地域、民間企業など様々な主体が参加し、互いに助け合い、支え合う、協働のまちづくりが必要不可欠としています。この第4次総合計画の施策の大綱の中で、高齢者が生きがいを持って暮らせるまちづくりを掲げ、高齢者が様々な分野で生きがいを感じられるよう、高齢者の社会参加や元気づくりにつながる取組みを支援することとし、平成26年度末に策定した府中町シルバー人材センター第三次中期計画の就業延人員の目標値（平成37年度までの目標値を48,360人）を参考にし、高齢者の社会参加づくりを支援することとしています。

これらの上位計画のもと、シルバー人材センターは、就業意欲のある高齢者を積極的に受け入れていき、就業機会を提供することにより地域社会に貢献するとともに、地域から信頼される組織として、期待が寄せられています。

シルバー人材センターの事業（以下「シルバー事業」という。）の内容も年々変化する中で、各拠点は危機感をもって、創意工夫し魅力あるシルバー事業に取り組んできました。平成27年度は次世代雇用サポート事業（派遣事業）を中心に引き続き地域ニーズ事業（府中町子育て応援団・団塊の世代を活用する「府中町歴史発見カフェ」の運営）に取組み補助金の確保を図りました。シルバー事業に係る補助金は制度の変更により減額されていますが、府中町からの特段のご配慮及び会員が一丸となり就業に取り組んできた結果、事業基盤に大きく影響はありませんでした。

平成27年度の当期経常増減額の単年度ベースで388,648円の黒字に転じ、正味財産期末残高としては25,803,839円で、この黒字分は収支相償の考え方に基づき、特定資産の固定資産取得積立資産（車両運搬1台）及び財政運営資金積立資産準備金として積立をします。

会員数は、役員や会員のご努力により前年度より27人増加しています。

受託事業収益の内の受取配分金は120,835千円で前年度と比べて4,927千円の減額となっていますが、その要因は公共事業からの受注の一部を派遣事業に切り替えたためで、平成27年度の派遣賃金が12,961千円あることから、配分金及び派遣賃金を合計すると、前年度より約4,335千円増額となっています。

シルバー人材センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」に基づき、つぎのように取り組みましたので、ご報告申し上げます。

## **(1) 事業運営の健全化と組織体制の強化**

会員の就業ニーズと、家庭、事業所、公共団体等の仕事の需要を結合させることによって、高齢者に社会参加の機会と生きがいづくりに寄与し、公平・公正・透明性のある事業運営を推進してきました。

また、派遣事業を推進するにあたり業務係兼派遣コーディネーターを配置し、将来を見据えた体制づくりに努力しました。中堅職員の退職により、事務局機能の充実を図ることができませんでしたが、急遽臨時職員を配置し、日常の事務処理の迅速化、効率化を追求し事務を行ってきました。

国や自治体からの補助金については有効に利用し、役・職員を始め口コミによる会員の受注活動を積極的に推進し、特に、平成27年度から始まった高齢者活用・現役世代雇用サポート事業（派遣事業）を推進し、介護育児支援業務や地域における人手不足分野等への取組みを拡大しました。また、指揮命令が必須の職域について有料職業紹介や派遣事業に切り替え、就業機会の適正化の推進に努めました。

## **(2) 会員（特に女性会員）の増強**

会員の確保に向け、口コミ、町広報紙、「安芸府中シルバーだより」、事務局だより等を通して会員の増強に努めた結果、当センターの会員数は3月31日現在389人で、昨年より27人の増になりました。会員数としては、第三次中期計画の数値を上回り、女性会員が15人増で、男性会員の入会者を上回ったものの、女性比率の計画数値35.9%には達しませんでした。なお、今後福祉・家事援助や子育て支援サービス等の女性向けの仕事が増えることが予想され、女性会員の増強が不可欠となります。

### (3) 普及啓発活動の強化と実践

ホームページの内容の充実を図り、シルバー事業の内容を町民に理解していただくよう努め、介護予防事業の府中町からの委託事業については、広報ふちゅうに掲載され、普及啓発に寄与していただきました。

年1回「安芸府中シルバーだより」を町内全戸に配布し、なお、会員には「事務局だより」を発行し、最新のセンターの情報提供に努めました。町内の各種イベントに積極的に参加して、関係団体との交流を深めチラシを配布してシルバー事業の普及啓発に努めました。

### (4) 就業機会の拡大と就業場所の確保

#### ①役・職員、会員による就業開拓

就業機会の創出のため、個人、民間事業所、公共機関へ巡回や訪問を行い、会員に適した新たな就業機会の開拓に取り組みました。また、会員の就業確保の観点から、体験就業の場を増やし、就業のミスマッチを防ぐとともに未就業者が少なくなるよう努めました。

#### ②一般労働者派遣事業の推進（現役世代雇用サポート事業）

多様化する就業形態に対応するため、平成27年度から始まった高齢者活用・現役世代雇用サポート事業に積極的に取り組み、一部自治体からの委託事業について、一般労働者派遣事業に切り替え、就業機会の確保に努めました。なお、平成27年9月30日に施行された「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律等の一部を改正する法律」の規定により、高年齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部が改正され、一般労働者派遣事業が労働者派遣事業に改められました。

#### ③有料職業紹介事業の推進

臨時的かつ短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業（主に町内保育所での仕事）について、会員に対し積極的に有料職業紹介事業の展開を図りました。

#### ④独自事業の推進

オレンジサロン、メンズサロン、健康マージャン教室、健康マージャンサロン、お達者クラブ、健康体操等を実施し、高齢者の介護予防を行うとともに運動機能向上指導者22人の養成を図りました。

## （5）地域ニーズ対応事業の取組み

国等からの補助金を有効活用して、府中町と連携を図り、地域ニーズ対応事業として、働きながら子育てできる環境づくり及び子育て支援施策を下支えすることを目的でファミリーサポートセンターと合同研修会を開催し、シルバーママサービスで子どもの一時預かりを行うとともに、産前・産後の支援など「府中町子育て応援団」を実施しました。

また、府中町を知り歴史・文化を伝承する役割を食文化も含め後世に伝えるため、「団塊の世代を活用する府中町歴史発見カフェの運営」をし、地域事業者や障がい者施設と協同で、新しい府中町土産の製作、町史に詳しい会員や歴史民俗資料館の協力で古地図を再生し、椿庵で「歴史めぐりガイドブック」を無料配布しました。観光案内できる会員を配置し、健康増進を兼ねた旧所名跡を案内し、府中町の歴史・文化・自然を満喫していただきました。

## （6）会員に必要な知識・技能向上のための研修の充実

センター独自の研修会をはじめ、他専門機関が実施する講習会へ積極的に参加してもらい、会員の技能や知識の向上を図りました。昨年度から管理群の会員の年1回の必須講習会を開催し78人が受講しました。なお、剪定について専門職の技術継承については、新規会員の希望が少なかったため、会員の後継者の育成ができませんでしたが、今後も引き続き後継者の育成に力を注ぐ必要があります。また、特別会員の懇話会を開催し、平成27年度の事業進捗を報告するとともに、事業運営についてご意見、ご助言をいただきました。

## （7）安全・適正就業の推進

センター事業の運営にあたって安全就業の確保は、何よりも最優先されます。安全就業推進計画に基づき、安全就業に対する事業計画のもとに、会員が安心・安全で活動、活躍できるよう努めてきました。また、安全部会による年4回の安全巡回指導、パトロール等を実施、職員による抜打ちパトロール等を実施し、安全対策の意識の高揚に努めました。

その結果、昨年に比べ賠償事故が5件から2件に、傷害事故が2件から1件に、車両事故が3件から0件に減少しました。しかし、事故は就業中及び就業途上に発生し、安全確認を怠っての不注意、慣れ・過信によるもので、引き続き重点的に啓発や指導など、安全就業への取組みについて指導しました。

また、提携医の健康診断・健康相談の受診を義務づけ、健康管理についての意識の高揚に努めました。

## （8）社会参加活動の推進

10月の第3土曜日、シルバーの日に合わせて町内の環境美化活動の一環として、くすのきプラザ周辺と本町公園から府中公民館まで清掃・除草を行い、66名の方が社会奉仕活動を行い、シルバー事業の普及啓発に役立てました。

なお、会員有志がシルバーママ前の花壇の手入れ、緑のカーテンの栽培を演出したことに対し、府中町脱温暖化市民協議会主催の緑のカーテンコンテストにおいて「プラチナ賞」を受賞しました。

また、不審者から子供を守るため、多くの会員や職員が小学校の登下校の見守り活動に協力しました。